



日本盆栽作家協会会報

第16号

平成20年12月1日



第16回作家展

会期／平成19年12月7日(金)～10日(月)
 会場／春花園BONSAI美術館
 主催／日本盆栽作家協会
 後援／(財)高木伝統園芸文化振興財団

作家精神の高揚と研究・研鑽及び盆栽作家の社会的地位の確立を目的として開催される作家展も回を重ね、16回展が盛大に開催されました。大変すばらしい作品がそろい、これからの更なる研鑽と発展が楽しみです。



うめもどき 山田香織 和長方



真柏 小林國雄 古渡烏泥長方



五葉松 野上寿明
 紅泥袋式新渡



カエデ石付 今井千春
 鴻陽ルリ釉楕円



画竜梅 山田登美男
 古備前鬼面足丸

今日 盆栽界に足りていないこと！

— 考えなければならないこと！ —

日本盆栽作家協会を設立して、その準備段階を含めずと約20年になります。これを期に更に大きな目標を持って、初心を顧みて協会規約第二章の目的について考えてみたいと思います。

第三条 本協会は盆栽の芸術的、社会的、国際的評価を高める為、盆栽作家を養成確率し合わせて作家相互の研鑽と親睦をはかることを目的とするとあります。

国際的には、ヨーロッパのイタリアに支部を置き、主にヨーロッパに年一回のイタリア大会、二年に一回のヨーロッパ大会を開催して、大変に成長発展しております。また、隣国の中国においても世界盆景石文化協会発足に参画、名誉会長、副会長と二人の役職を送り、友好的協力関係に発展しております。

国内的には、会員増員の面については、やや劣るが、しかし財団法人 高木盆栽美術館の発展の為、多方面に協力関係をつくしてまいりましたことは、ご承知の通りであります。

また、さいたま市の行政の手によって2011年3月にオープンする日本において初めて設立される仮称「さいたま盆栽会館」についても参画し、側面より努力を尽くして実現できるものであると言っても過言ではないと思っております。今後、盆栽は時代と共に大きく発展するには、技術的な面と理論的な武装をすることが肝要かと考えます。

本協会が平成10年11月に開催しました（故）丸嶋秀夫先生の文化講演会をここで改めて取り上げて盆栽文化、芸術性と学術上からも思考してみたいと思います。



五葉松
須藤雨伯
紫泥楕円



赤松
鈴木英夫
南蛮丸

長寿梅
吹田勇雄
餃趾丸



オリーブ ピーター・ウォーレン(イギリス)
広東長方



※13頁続く

日本盆栽作家協会主催 文化講演会（平成10年11月）

盆栽と文化財保護法

（弁護士・日本盆栽学会 副会長）

（故）丸嶋 秀夫

一、はじめに

盆栽界には、芸術上勝れた盆栽というものがあります、また歴史上或いは学術上貴重な盆栽というものもあります。

このような盆栽の中から、日本の盆栽を代表し、後世に残すべき特別に貴重な盆栽を、便宜上「特別貴重盆栽」ということにします。

盆栽界では、盆栽は日本の伝統文化であり、今日、世界的に芸術として認められているので、「特別貴重盆栽」を「国宝」或いは「重要文化財」に指定してもらいたいと熱心に説く人々がいます。また、それができないなら「天然記念物」に指定できないか、という議論もあります。

一方また、名品盆栽の創作に格別の業績があり、勝れた技能

を持った人を「重要無形文化財保持者」いわゆる「人間国宝」に指定できないかという議論もあります。

このような「国宝」「重要文化財」「天然記念物」「重要無形文化財」の指定問題は、全て「文化財保護法」（昭和二十五年、法二一四号）の問題です。

二、「国宝」「重要文化財」

文化財保護法は、文化財の保存と活用を図る為に作られたものです。この法律を運用する担当行政機関としては、国としては主として文化庁、地方では都道府県及び市町村の教育委員会です。

地方公共団体は、国指定の文化財以外の文化財について、その区域内に存在する重要なもの

を、指定文化財とすることができます。

その指定基準は、国の指定基準に準じています。現行法では、「文化財」は五本建てになっています。

① 有形文化財、② 無形文化財、③ 民俗文化財、④ 記念物、⑤ 伝統的建造物群

この内、盆栽との関係で今問題としているのは、① 有形文化財、② 無形文化財、④ 記念物の三つです。

有形文化財について

建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書その他の有形の文化的所産で我が国にとって歴史上又は芸術上価値の高いもの（これらのものと一体をなしてその価値を形成している土地その他の物件を含む。）並びに、考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史的資料と規定されています。

「重要文化財」については、「文部大臣は、有形文化財の内、重要なものを、重要文化財に指定することができる」、「国宝」については、「文部大臣は、重要文化財の内、世界文化の見地から価値の高いもので、たぐいなき国民の宝たるものを国宝に指定することができる」と規定しています。指定には文化財保護審議会に諮問しなければなりません。

現行法では、二条一項一号の「有形文

化財」の規定の中に「その他の有形の文

化的所産で我が国にとって歴史上又は芸術上価値の高いもの」という文言があります。そこに「盆栽」の入る余地はないか、ということですが、そうならばすばらしいのですが、それは現行法では盆栽会の「夢」です。何故かといいますと、「有形文化財」の例示物件がいずれも非生物であることから理解されるのですが、命のあるものは一号の「有形文化財」ではなく、四号の「記念物」の方で処理する

が、法の趣旨であると考えられます。実際、文化庁の文化財保護部もそのような区分けで対応しています。また「有形文化財」の保護の歴史をみてもそのように扱うのが当然であります。

ところで、国宝・重文の指定には、法律の規定だけではいささか抽象的なので、指定の為に、指定基準を設けています。それは「国宝及び重要文化財指定基準」です。それによりますと、国宝・重文は現行法の規定に対応して、

① 絵画・彫刻の部、② 工芸品の部、③ 書籍・典籍の部、④ 古文書の部、⑤ 考古資料の部、⑥ 歴史資料の部、⑦ 建造物の部の通りに分類され、それぞれに指定基準が示されています。

「盆栽」は、沿革からみても「有形文化財」には想定していないということ

考えられます。

四、重要無形文化財

規定には、演劇、音楽、工芸技術その他の無形の文化的所産で我が国にとって歴史上又は芸術上価値の高いものとあります。

「重要無形文化財保持者」に認定されますと、いわゆる「人間国宝」と言われるわけです。現在の運用では「盆栽創作の伝統的技術」は「重要無形文化財」の指定からは除外されています。

しかし、現行法の解釈として、「盆栽創作の伝統的技術」が「その他の無形の文化的所産で我が国にとって歴史上価値の高いもの」に該当する、とすることはできるとしています。「盆栽」は平安時代末頃から連綿として続いている伝統文化であります。

五、おわりに

盆栽界は、昔から、盆栽が日本文化の中で、名誉ある地位を占めたいと心から願っています。そこから文化財保護法によって、「国宝・重文の指定」とか「重要無形文化財の指定」を受けられないか、という願望が起こってくるわけです。

日本盆栽協会が、昭和五十六年に

ただ盆栽の「鉢」は工芸品ですから、現行の文化財指定基準の要件を充足すると認定されれば、理論上は国宝・重文に指定されることも不可能ではないはず。問題は、指定基準を充足すると認定されるような盆栽鉢があるかどうかです。将来、重文指定の盆栽鉢が出ることを愛盆家として願っている次第です。

三、天然記念物

「特別貴重盆栽」を「天然記念物」或いは「特別天然記念物」に指定することはできるでしょうか？

法二条一項四号は「記念物」について次の通り規定しています。

貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で我が国にとって歴史上又は学術上価値の高いもの、庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地で我が国にとって学術上又は鑑賞上価値の高いもの並びに動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）及び地質鉱物で我が国にとって学術上価値の高いもの。

「天然記念物」指定基準では、「名木」「老樹」「畸形木」とあり、鉢植えの木を除くとは書いてありませんから、「学術上の貴重性」が高ければ、そのような「盆栽」も指定可能なのではないかと、とも

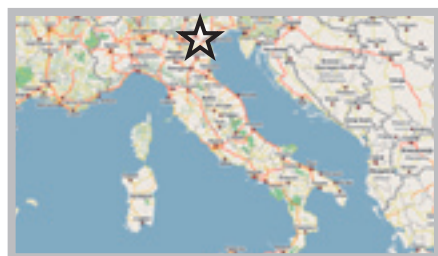
「貴重盆栽登録制度」を作ったのも、このような願望の延長線上にあります。大声で繰り返し出張していれば「継続は力なり」で、夢が現実化するかもしれません。もし将来願いが叶って、「国指定文化財」ということになれば、日本社会において大変な宣伝効果になり、盆栽の文化的地位を一挙に引き上げるでしょう。

ただ、そのようなになった時に、私が危惧していることもあります。

実際の認定にあたっての審議会では、認定候補者の盆栽作家としての「業績」「技能」「作品」が当然審査されますが、盆栽界で慣行となっている、「盆栽作品における作家の匿名主義」が大きな障害になると思います。盆栽の「所有者」と「作家」は必ずしも一致しません。候補者がいつ頃、どのような作品を創作したかということは、匿名の為、記録がほとんど残されて無いです。その為証言を集める程度です。その「偽証」も出てくるでしょう。

もう一つは、歴史的な価値の有る盆栽として認定されたら、みだりに改作してはならないということです。その時代の作風や外形を残している点においてこそ、貴重な「歴史上の価値」があるのです。





(日本盆栽作家協会講師)
今井千春



日本盆栽作家協会ヨーロッパ支部後援

2008年 2月22日～24日
イタリア・パドヴァ市

BONSAI イタリア大会

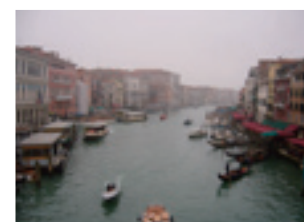
2008年2月22日～24日、イタリアパドヴァ市で、日本盆栽作家協会ヨーロッパ支部主催による、盆栽イタリア大会が開催されました。本協会から、今井千春氏が、講師として招待されました。1日目は、イタリア支部員に講習会。2日目は、現地の素材(黒松)を使いデモンストレーション。
大会終了した翌日以降、ロッシーニさんの盆栽園で出品者全員の作品について講評を行ったり、ベネチアを見てまわりました。(P14カラー頁も併せてご覧下さい。)



デモンストレーション風景



(上) 講評会 (下) 会場内展示作品



ヨーロッパ支部の皆さんとベネチア風景



(左上) 教室外観 (上) 参加者の皆さん



(左) ベニカル口風景



(右・右上) 作品の数々



実習風景

【第二回】今井千春 スペイン盆栽教室

2008年3月1日から3月7日に、第二回今井千春 スペイン盆栽教室が、スペインベニカル口市で開催されました。二回目ということもあり、昨年より内容の充実して、特に枝抜き等、将来を考えての樹造りができるようになってきました。(P15カラー頁も併せてご覧下さい。)



(日本盆栽作家協会常任幹事)
野上寿明



(日本盆栽作家協会会長)
山田登美男

日本盆栽作家協会 中国交流記

2008年 9月29日～10月3日
中国 西安、南京

発展めざましい中国盆栽界



幹部と挨拶される山田会長



山田会長と南京盆栽協会幹部の方々



展示作品の数々(南京)



世界盆景石文化協会 成立大会 会場前にて



南京でのデモンストレーション風景

2008年9月29日から10月3日に渡って、日本盆栽作家協会 山田会長、野上寿明氏、今井千春氏の3名が中国で開かれた盆栽の二つの大イベントに招待されました。活発な交歓が行われ、中国盆栽界との交流を深めてまいりました。一つは、中国・西安 唐苑にておこなわれた、世界盆景石文化協会の成立大会。もう一つは、南京での盆栽展示・実演会。

どちらも大変な、にぎわいを見せ、中国盆栽界の発展の勢いをまざまざと感じさせる旅でした。(P14カラー頁も併せてご覧下さい。)

9月の「世界盆景石文化協会」の設立本大会を前に、その準備大会(会合)が、6月21日に開催されました。日本からは、山田会長と野上寿明氏が出席しました。

午前中、出席者全員が集まり、一人一人紹介され、活発な意見交換がされました。

午後、唐園の作られている、園内を見学、土地面積2万5千ヘクタールの土地に公園が作られ、日本の錦鯉が数多くはなされ、松の木林風で、すごく大きなスケールでびっくりでした。

その後、記念写真を撮ったり、空海さんが修行された寺や兵馬俑坑博物館を見学しました。

2008年6月21日 世界盆景石文化協会 設立準備大会



(上)参加者一同記念写真
(下)空海記念堂



(上)会合風景



(右)兵馬俑坑博物館

黒松
田中泰道
和輪花



五葉松
江田博
和丸太鼓胴



五葉松 山田寅幸
紫泥撫角長方

五葉松
阿部健一
和正方



西安会場 展示作品の数々

デモンストレーション風景



鳴沙山月牙泉



敦煌

大砂丘



ラクダに乗って



中国の旧跡を訪ねて 万里の長城・故宮博物院・敦煌
莫高窟、鳴沙山月牙泉
2008年9月25日から28日に渡って、世界盆景石文化協会の設立大会出席に先立ち、永年、興味を抱いていた中国の旧跡を巡る機会に恵まれ、数千年の歴史の醍醐味を堪能してきました。



2008年9月29日・30日、中国・西安市 唐苑にて、世界盆景石文化協会の成立大会が盛大に開催されました。そこで、日本盆栽作家協会 山田登美男会長が、世界盆景石文化協会 名誉会長に、野上寿明氏が副会長にそれぞれ選任されました。

今井千春氏のデモンストレーション等、沢山のイベントに中国の官民から多数の参加者があり、中国の盆栽に対する熱い思いが伝わってきました。(P10 詳細をご覧ください。)



多数の展示作品



会場入口



山田登美男 名誉会長 挨拶



世界盆景石文化協会 会員一同

日本盆栽作家協会後援

2008年 9月29日～30日
中国・西安市

世界盆景石文化協会成立大会



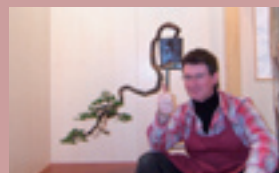
記念式典



(上)作品と作業風景(下)参加者一同



実習風景



会員の作品

【第二回】今井千春 スペイン盆栽教室

2008年3月1日から3月7日に、第二回今井千春 スペイン盆栽教室が、スペイン・バニカルロ市で開催されました。二回目ということもあり各自手際よく作業が進み、内容の充実した教室ができました。(P8 詳細をご覧ください)



(上)会場入口にて (下)展示会場



(上)今井氏デモンストレーション (下)参加者のみなさん

日本盆栽作家協会ヨーロッパ支部主催
イタリア大会
2008年2月22日から24日に渡って、日本盆栽作家協会ヨーロッパ支部主催イタリア大会が、バドヴァで盛大に開催されました。
日本から今井千春氏が、講師として派遣され、講習会やデモンストレーションを行いました。
(P8 詳細をご覧ください)

